

4, 一般的な防除柵の特徴と設置上の留意点

4-1 トタン柵

4, 一般的な防除柵の特徴と設置上の留意点

4-1 トタン柵

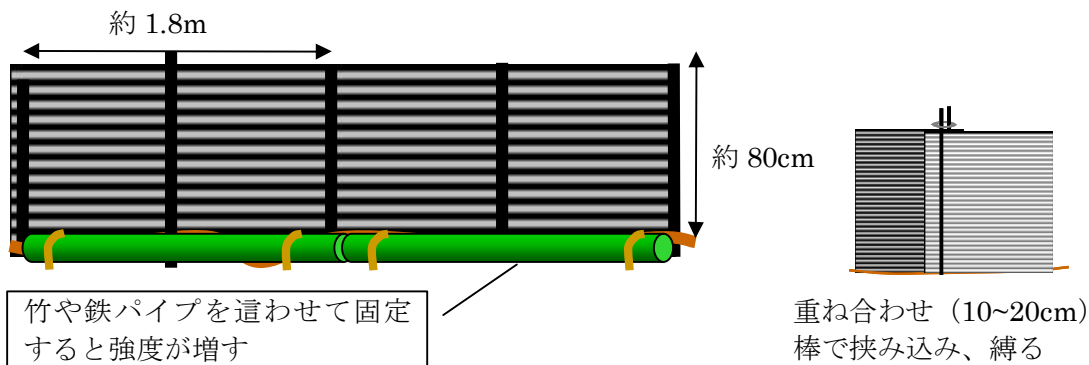
4, 一般的な防除柵の特徴と設置上の留意点

4-1 トタン柵

4-1 トタン柵

◆基本的な構造

- ・トタンの境目は10~20cmは重ね合わせ、鉄パイプや鉄筋で挟み込んで固定。
- ・トタンと地面の隙間が無いように、地形の変化点では、トタンを多めに使用して、隙間ができないように設置。



対象鳥獣	イノシシ	機能・種類	柵の種類：侵入防止柵（個別の圃場に設置） すみわけ柵（農地・集落周囲に設置） （トタン単独での設置する場合は個別の圃場への設置に留めておく方が無難） 柵の機能：視界を遮ることで侵入を防ぐ
長所	<ul style="list-style-type: none"> ・農業資材で作成できるため、容易に手に入る ・廃パイプ等の廃材が手に入りやすく、安価に仕上がる ・設置や更新が容易であるため、設置者自身が補修・更新する事ができる ・厚手のトタンを使用し、鉄パイプで補強すれば、物理的にも強度が増す ・他の防除柵と併せて設置する等の工夫が容易 		
短所	<ul style="list-style-type: none"> ・高さが低く、強度にも限界があるので、被害の常習地では、乗り越え、持ち上げ等により容易に侵入される事がある ・耐用年数が短い ・設置場所によっては風や雪によって破損する ・固定が悪いと暴風時に飛んで行く事がある 		

◆工夫

- ・トタン柵の手前（外側）に電気柵を設置することで、目隠しと電気ショックによる相乗効果が得られる。
- ・シカのいる地域では、支柱を伸ばし、上部に電気柵や樹脂ネットを張ることで対応できる。

4, 一般的な防除柵の特徴と設置上の留意点

4-1 トタン柵

◆導入時の留意点

- 高さが低いので、斜面上部からの侵入を防ぐためには、上下に 2 枚設置するなど、設置場所によっては高さを増やす。
- 押すとグラつく箇所は集中的に侵入されやすいので、支柱や下部を補強。

- トタンとトタンの接合部は、支柱で挟み込んで固定する。



- 視界を遮ることで侵入を防ぐ柵であるため、トタンと地面、トタンとトタンの境目に隙間ができないように、10cm~20cm 程度重ねて設置する。



- 地形の変化でスキ間ができないように、惜しみなく重ね合わせる。

十分重ね合わせても、傾斜の変化点には隙間ができるので、竹や間伐材を獣側に追加して、持ち上げを防止する必要がある



- 溝から侵入されることがあるので、溝も工夫して固定する。



固定例
まずは、固定して様子を見る



4, 一般的な防除柵の特徴と設置上の留意点

4-1 トタン柵

◆複合柵への工夫

トタン単独での使用は、防除能力に限界があるが、複合柵として使用した場合には、目隠し効果が持続し、他の防除柵の弱点を補う事ができる。

●トタン+電気柵

- ・トタンの外側（獣側）に電気柵を設置することで、トタンの破損を防ぎ、目隠し効果が持続する。
- ・電気柵の電撃に驚いて前に出してしまう個体の侵入を防ぐことができる。



●トタン+電気柵

- ・トタンの上部に電線を配置することで、トタンを乗り越えて侵入する獣類を防除できる。
- ・柵線間隔が 7cm 以下になるように、プラス線とマイナス線を配置し、樹脂ネットを設置することでサル対策としても使用が可能。



●トタン+金網柵

- ・金網柵にトタンを増設することで、目隠し効果が増し、下部からの侵入が軽減する。

(注：金網とトタンの距離をあけて設置すると間に生えた草の管理ができなくなるので金網とトタンの距離はあけずに設置)

